



Hostelling Magazine

色即ぜねれいしよん

今、改めて

みづらじゅん × 田口トモロヲ × 峯田和伸 × 渡辺大知

(銀杏BOYZ)

(黒猫チエルシ)

Hostelling Magazine × 地球の歩き方 www.arukata.co.jp

夜景×アートが新しい! 香港

Youth Hostel Pick up

海と空を結ぶ、緑の架け橋

丹後の自然と人が旅のよるこびにつながる

天橋立ユースホステル

この冊子は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。





いつだって
どこだって



ぼくらのミカタ。 **ランチパック**

Digital HI Membership

ユースホステル デジタルメンバーシップ



世界中のユースホステルで使える！

世界80の国と地域にあるおよそ3600ヶ所のユースホステルをリーズナブルなメンバー価格で利用できます！



PC または スマホ で登録！

登録は簡単3ステップ！クレジットカードまたはPaypalの決済後すぐに会員証がメールで届きます！
Apple Wallet / Android にも対応しています。



旅先だけじゃない！Digital Member だけの特典も！

世界各国のユースホステルが提携している博物館や鉄道などの会員割引提携サービスはもちろん、日本国内の一部のユースホステルではDigital Member だけが受けられる特典をご用意しています。

スマホで旅する？
スマホと旅する？

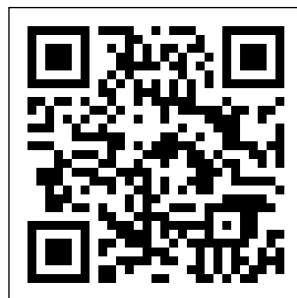


登録はカンタン3ステップ！

1 QRコードまたは日本ユースホステル協会HPから登録ページへ

2 必要項目を入力して規定を確認。
クレジットカードまたはPaypalでお支払い

3 世界中で使えるユースホステル会員証(PDF)がメールで届いて登録完了！



adt/hm14d



※画面はハメ込み合成です。



HOSTELLING
INTERNATIONAL

Vision

Principle and Philosophy

Inclusivity

世界を超えて

Learning and Understanding

考えよう

Sustainability

僕らと子ども達の未来のことを

日本ユースホステル協会はユースホステルのビジョンに基づき、日本国内にユースホステルを設置・運営すると共に、国際ユースホステル連盟や各国のユースホステル協会と協調し、知見を広める「旅」を促進する活動を行っています。

Line up

インタビュー P02

色即せねれいしよん 公開10周年対談

原作/みうらじゅん

監督/田口トモロヲ

銀杏BOYZ/峯田和伸

黒猫チエルシー/渡辺大知

公開から10年ー

今、改めて色即せねれいしよん

Youth Hostel Pick up P12

海と空を結び、緑の架け橋

丹後の自然と人が旅のよるごびにつながる

天橋立ユースホステル

Hostelling Magazine × 地球の歩き方... P16

夜景×アートが新しい! 香港

■ 町中が美術館!

中環〜上環ウオールアート巡り

■ SNS映え必至!

かわいいスイーツ店が急増中

■ 今、リノベスポットがアツい!

2大最新スポット案内

■ 2泊3日で満喫する

香港観光モデルルート

教えて! 旅GIRL P22

松島むうの晴れときどき旅びより P23

※本紙の情報は2019年6月20日現在のものです。変更になる場合がありますので、お出かけの前に現地にお確かめください。
発行所 一般財団法人日本ユースホステル協会
編集・発行人 寺島 真
TEL. (03) 5738-0546
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
国立オリンピック記念青少年総合センター内
※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。
制作・印刷製本/サンメッセ株式会社

公開から10年—

今、改めて 色即ぜねれいしょん



銀杏BOYZ

峯田和伸

監督

田口トモロヲ

ひと夏の「旅」を経験した高校生たちの葛藤と成長を描いた、みうらじゅんさんの自伝的小説「色即ぜねれいしょん」。田口モロヲさんの監督で2009年に映画化され、いまやミュージシャンにとどまらず俳優としても活躍する銀杏BOYZの峯田和伸さんや、俳優デビュー作となった黒猫チェルシーの渡辺大知さんなど多彩なキャストと、色褪せない青春の風景、心を揺さぶる音楽が当時大きな話題になりました。映画公開から10年を経て、映画「色即ぜねれいしょん」に関わられた4名の夢のような座談会が実現しました。



原作

みうらじゅん

黒猫チェルシー

渡辺大知

主役に大知くんを選んだのは 役をリアルに 等身大に生きられる人だったから

みうらじゅん(以下 みうら) 大知くんって公開当時、まだ高校生だったでしょ?

渡辺大知(以下 渡辺) はい!17~18歳の頃でした。

みうら その頃、俺とトモロヲさんは既に年寄りだったもんね(笑)。

田口トモロヲ(以下 田口) もう50歳過ぎてたよね。

— 渡辺さんは「色即ぜねれいしょん」が俳優としてのデビュー作になりましたが、主役にキャスティングされる経緯はどのようなものだったのでしょうか?

田口 キャスティングと脚本が肝だと思っているので—

みうら なんかそういう質問、公開当時の記者会見みたいで懐かしいね(笑)。

田口 うん、懐かしい(笑)。「色即ぜねれいしょん」の前に監督した「アイデン&ティティ」(2003年)の峯田くんもそうだったんですけど、主役に関してはできるだけその役をリアルに等身大で生きてもらえる人をキャスティングしたいと思って、既成の俳優さんではない人を探すという方向性でオーディションしました。

みうら いきなりどっちも主演だったってことがすごいよね。

峯田和伸(以下 峯田) そうですよ(笑)。大知くんは、いきなり主演って怖くなかったですか?普通の高校生が映画の主演って。

今では“トモロヲさんが撮ってくれた 映像=俺が体験したこと”に なっちゃった

渡辺 最初のオーディションに行った時はこんなにでかい話になるとは思っていなくて……。ワークショップ(主催する講師の考え方や演技の訓練法、実践法を紹介し、参加者はそれを通して自分で気づきを深めていく演技レッスン)のようなことをやって、「トモロヲさんに会えてよかったなー」ぐらいの感覚で、オーディションはそれでもう終わりだと思っていたんですよ。主役の乾純(いぬい・じゅん)役に選ばれた時はまだ他のキャストの方々も決まっていなかったですし、主役が自分に決まったと言われても、後から「やっぱりナシ」って言われるんじゃないかと思っていました……。

みうら 大人の約束ってよく途中でポシャったりするもん

ね(笑)。

渡辺 撮影が始まってからだんだん「自分は本当に主役なんだ」って実感するようになってきた感じです。

峯田 みうらさんが原作を書いている時は、映画化されるってことは想定されていたんですか?

みうら いやいや、映画化されるなんて思ってもいなかったんですけど、「色即ぜねれいしょん」は自分の体験したことが基になっているから、書きながら情景は自ずと映画のように見えていたんですよ。小説を書くって作業は頭の中で思い出をもう一度、上映して、それを書く、みたいなことだから。でも、完成した「色即ぜねれいしょん」を観て驚いたのは、自分がイメージしていたのとほぼ同じだったんですよ!それってすごいなと思った。

峯田・渡辺 へえ〜〜!

みうら だって、当時のユースホステルに泊まった経験があるのって、この中でも俺しかないでしょ。峯田くんはそのユースホステルの「ヒゲゴジラ」というヘルパー(ユースホステルの活動をボランティアで支えるスタッフ)役をやってくれたけど、実際の人物には会ったことないわけだし。そのままではなく当然脚色はあるけど、でも、かなり忠実に再現されていると感心しました。だから、今では“トモロヲさんが撮ってくれた映像=俺が体験したこと”になっちゃってるんだよ(笑)。

ユースホステルのヘルパーは 高校生を大人扱いしてくれる 唯一の存在だった

— 当時のユースホステルを知る人に聞くと、「あー、ヒゲゴジラみたいな人いたいた!」ってなるんですね。

みうら 映画を撮るにあたって登場人物のモデルになった人たち数人に連絡をとったんだけど、ヒゲゴジラは「表には出たくないから」って面会が叶わなかったんだよね。とてもシャイで優しい人だった。そして、当時高校生だった俺を大人扱いしてくれた唯一の人だったんだよね。だから、ユースのヘルパーと聞くと、“年齢に関係なく大人の扱いをしてくれる人”っていうイメージが今でもあります。

田口 同じ目線でいてくれるって、その年頃の人たちにとってはすごく嬉しいことだよ。

みうら ヘルパーって、十代のロマンを叶えてくれる存在だと思うんです。当時はみんなでミーティングして歌を歌ったりしてさ。男子校生としては先ず、女の人と知り合いたいという思いもあったからもう必死でね(笑)。後にユースで知り合った大学生の女の人は文通までしましたよ。その人が送ってくれた詩にメロディをつけてカセットテープを送り返したり。その人だけは「いい曲ね」って言ってくれたん

だ(笑)。

— 素敵なエピソードですね!でも、ユースを離れてからは恋愛には発展しなかったんですか?

みうら うーん…なかったなあ。ユースで出会った女性は真面目な人が多かった。「色即ぜねれいしょん」のヒロインのオリーブだって、実在の人物は映画みたいな人じゃない部分も多いね。実際の人物の写真はトモロヲさんも観てるから知ってると思うけど(笑)。

— 白田あさ美さんが役を演じていた映画の中でのオリーブは、高校生男子たちの憧れの女子の象徴、という女性でしたね。

田口 「憧れの具現化」という感じですよ。リアルな話をどこまで底上げするかっていうのは微妙なさじ加減なんですよね。ありえない美人だと「そんな訳ねえじゃん!」って観る人全員が思っちゃうし、「このぐらいの可愛さだったら、実際にいそうかな」というチョイスは難しいです。

みうら 白田さんは本当、適任だったよね。

ユースホステルには 半径数十メートルしか 効かない「魔法」がある……!?

— 「旅先で出会う人の魅力は何割増」みたいな現象って起こりがちですよ。

みうら ですね(笑)。ユースで出会って地元でもう一回会ったりすると「……ええ〜っ?ちょっと違う」ってなった。

田口 雪山現象みたいなもんです。

峯田 僕はユースホステルに泊まったことが無かったんですけど、撮影で泊まった天橋立ユースホステルがユースホステルの初体験で、真夏で暑くて、海があって、浜辺が綺麗で楽しくて、都会では味わえない雰囲気が好きだったんですけど、実はあの撮影当時の僕のマネージャーが白田さんのマネージャーに恋しちゃって。

一同 えーっ!?

峯田 撮影の最終日の朝早くに、眠れなくて一人でビーチを散歩してたんですよ。そしたら、向こうの方から男と女の話し声がして。それがその2人だったんです。「何やってんだ?」って。ばれないように遠くにいたんですけど。撮影が終わってしばらく経ってからマネージャーに「その後どうなったの?」って聞いたら、「いや、なんか冷めちゃって……」って。



© 2009 色即ぜねれいしょんズ
発売・販売元:バンダイナムコアーツ

ある日、純は伊部と池山から隠岐島への旅に誘われる。彼らによると、隠岐島のユースホステルにはフリーセックス主義者が集まるらしく、数日後、浮かれ気分で隠岐島へ。そこで「世界一自由な場所を作りたい」と語るヒゲゴジラや、女子大生のオリーブたちと出会い、自由で気ままな時間が3人を魅了していく。

地元に戻った純は、自由を感じた島での時間、オリーブとの再会、「色即是空」という言葉に後押しされ、文化祭のコンサートに出演することを決意する…。

田口 ユースの半径数十メートルしか効かない魔法みたいだね。

みうら それがユースというか、旅マジック(笑)。

田口 映画づくりって「お祭り」みたいなものだからね。あんなにみんなと一緒に頑張ったのに、撮影が終わった直後には名前さえ忘れちゃうみたいなおもしろいことありますもん。

峯田 撮影の時は白田さんと一緒に花火とかもやったよね!

渡辺 線香花火を二人で並んでやりましたね。

みうら そりゃ、忘れられないわ(笑)。

— 渡辺さんは撮影中のロマンス的な出来事はあったのでしょうか?

渡辺 恋愛という感じではないのですが……撮影何日目に僕が喉を痛めてしまった時に、白田さんが「これ使っていいよ!」って自分が使っている喉に塗る薬を貸してくれたんですよ。あの口の中に入れてシュッシュってやるやつ。「えっ、白田さんがいつも口に入れてあるスプレー!?俺に、貸してくれるって…えっ、いいんすか……?うわー、俺、今口の中に入れてるわー!!」と内心ドキドキしつつ、白田さんには「ありがとうございます!助かりました」とお返しして、ホテルに帰ってから主人公の友達役の2人(池山役の森岡龍さん・伊部役の森田直幸さん)に「今日俺白田さんののどぬーるスプレー使わせてもらったわー」なんて自慢したり。それで二人から「なんだよー!なんで俺らにはないんだよ!」ってうらやましがられたなあ。あのことはいまだによく覚えていますね。ロマンスはなかったけれど、「色即ぜねれいしょん」の撮影期間には僕の高校時代の青春がすべて詰まっています!

「ヒゲゴジラの気持ち、わかるなあ」 自分と役を重ねながら 海に飛び込んだシーンの裏側

—それぞれ印象に残っているシーンや思い出のあるシーンはありますか?

峯田 僕はヒゲゴジラが海に飛び込むシーンですね。フェリーが1日1便しか出ないのでリハーサルができなくて一発本番で。で、監督や大知くんはフェリーの上でチェックして、「じゃあ、行きまーす」って。あの時、ビーチサンダルで走ったんですけど、途中でサンダルが脱げちゃって。でも止まるわけにいかないからそのまま途中から裸足で走って飛び込みました。

みうら あのシーンって実は映画の中ではまだ、中盤なのに

ね、もう涙が止まらなくなっちゃいました(笑)。

田口 あのシーンはピークポイントなんですよ。ユースに行く前と、ユースに行った後の主人公が変化するポイントだから。元々テイクするつもりはなくて一発勝負だと思ってたけど、峯田くんが回転しながら飛び込んだのはびっくりしたよ(笑)。

峯田 「この時のヒゲゴジラの気持ち、わかるなあ」って思いながら飛び込みました。なんというか、可愛がってた子達に示しをつける、みたいな。

田口 大人目線で見ると、ヒゲゴジラは毎回同じことをやってんだろなあ、と。そうやって心底、体も心も張って向き合っ、若者たちのハートをゲットしてるんだろなあって。

みうら ヘルパーの人たちだって、夏が終われば帰るんだよね。島民じゃないのに島民の気になってるのがすごいんだよね。

田口 みんなが都会に帰って行く時に「また戻ってこいよー!」みたいなこと言ってるんだよね。でも、お前だっていないじゃん、って(笑)。これもユースマジックだよ。

みうら 普通に旅行に行っって個室のホテルに泊まったらそうならないもんね。ちょっとカッコ悪いな、恥ずかしいなと思いつつも一緒に過ごすから、それだけ思い入れが強くなるんだろなあ。やっぱり、それが当時のユースの面白ところだったなあ。

ひとつの世界観を一緒に創り上げていく 映画製作の現場に感動

—渡辺さんは何か印象に残っているシーンはありますか?

渡辺 全部です!「色即ぜねれいしょん」が映画作りの現場を初めて経験した作品だったので、何もかもが新鮮でいい思い出ばかりです。その中でもユースホステルのシーンというと、ロケ地だった京都の「天橋立ユースホステル」には壁に絵が描いてあったりキャンプファイヤーをする場所があるのですが、撮影が終わった後に知ったんですけど、元々のユースホステルにはそういう設備はないって聞いて。キャンプファイヤーの場所も、元々は草がボーボーに生えた状態だったそうで。映画のスタッフの美術部さん達が当時のエリアの雰囲気再現するために頑張ってくださっていたんだ……と思ったら泣けてきちゃって。知らないところで色んな人たちが動いてくれていて、ひとつの世界観を一緒に創り上げていく映画の現場ってすごい、とぐっときましたね。峯田さんが飛び込んだシーンのフェリーにも「ようこそ隠岐島へ」という垂れ幕があったけど、あれも映画のために新たに制作したものだですよ?本当にすごい。

みうら 1973年にタイムスリップしてる映画だから、再現す

るにはそれなりなお金が掛かったんじゃないですか？

田口 そうですね。映るところはすべて70年代の仕様にしましたから。すごいですよね、映画の美術さん始めスタッフさんって。

渡辺 感動しました。

みうら 京都のシーンもいくつかあるけど、京都ってそんなに昔と変わってなかったような？

田口 京都はあちこちロケハンしたんですけど、変わってないように見えるシーンの反対側は実は近代化してたりするんですよ。だから片側しか映せないっていう制約があって、撮影場所が限定されてしまったんですよ……それが意外と大変でした。

みうら また、73～4年っていう時代が僕らにとって良かったんですよ。

田口 新しいものと古いものが融合しながら、共存していたよね。

みうら でも、映画ではこの二人（峯田さんと渡辺さん）が、

まさしくその時代に育ったような顔してるんだよねー。

一同（笑）。

田口 あの時代を本当に生きてるんじゃないか、って感じですよんね。

— 劇中、ユースホステルのミーティングのシーンで歌う「旅に出てみよう」という曲、みうらさんが作詞で、峯田さんが作曲されているんですが、あの歌も当時歌われていた歌を参考にされたんですか？

みうら もともと「旅に出てみたい」っていう実在のヒゲゴジラが作った曲があって、それを参考に歌詞を書いたんです。

峯田 僕も原曲を聴いて、こういう感じの曲を作ってください、と言われて作りました。

みうら（原曲は）Amから始まるマイナー調だね。

峯田 そうですね。当時は自主制作でこういう楽曲がいっぱい作られていたんですよ。



Profile 田口トモロヲ

1957年生まれ。東京都出身。俳優、ナレーター、映画監督。みうらじゅん、峯田和伸とのチーム「ブロンソンス」等。89年主演を務めた『鉄男』（塚本晋也監督）で注目を浴びる。1997年度毎日映画コンクール男優助演賞受賞。NHK「プロジェクトX〜挑戦者たち」（00～05）でナレーションを担当。04年『アイデン&ティティ』で映画監督デビュー。『色即せねれいしよん』で09年度新藤兼人賞銀賞を受賞。最新出演映画『パラレルワールドラブストーリー』（19/森義隆監督）。

Profile みうらじゅん

1958年生まれ。京都府出身。武蔵野美術大学在学中に漫画家デビュー。イラストレーター、作家、ミュージシャンなどとして幅広い分野で活動。1997年「マイブーム」で新語・流行語大賞受賞。2018年仏教伝道文化賞沼田奨励賞受賞。興福寺「阿修羅ファン倶楽部」の会長。『アイデン&ティティ』『色即せねれいしよん』『マイ仏教』『「ない仕事」の作り方』『マイ遺品セレクション』など著書多数。7月3日「みうらじゅんの松本清張ファンブック 清張地獄八景」が文藝春秋から発売予定。



Profile 峯田和伸(銀杏BOYZ)

1977年山形県出身。1996年にGOING STEADYを結成。2003年の解散後、銀杏BOYZを結成。2019年に2度目の日本武道館単独公演「世界がひとつになりませんように」を開催。また、2003年初主演映画『アイデン&ティティ』(03)で役者デビュー。以降、音楽活動と平行し『ボーイズ・オン・ザ・ラン』(10)、『ピース オブ ケイク』(15)、『素敵なダイナマイトスキャンダル』(18)などの映画に加え、「奇跡の人」(16)、「ひよっこ」(17)、「高嶺の花」(18)などのドラマにも出演。現在、NHK大河ドラマ「いだてん～東京オリムピック噺～」に出演中。

— 当時はユースホステル協会で歌集みたいなものも出していました。

みうら 「ドナドナ」とかも入ってましたね(笑)。

峯田 マイナーコードの曲が多いですよ?

田口 時代の気分だったんじゃない?陽気すぎるのを嫌うとか。そういう気持ちとあのメロディがシンクロしてた。時代の人達が求めていた音階。今は応援歌ばかりだもんね。

「ユースホステルって…」

思春期男子の勘違いはなぜ生まれた?

みうら ユースホステルは世界中にあるんですよね?

— はい、世界中にあります。もともとドイツで発祥した青少年運動です。

みうら あの時代のユースホステルはいわゆる旅慣れた“バックパッカー”たちだけではなかったから。

田口 未経験な若者が多かったってこと?

みうら そうだったと思いますね。僕を含め(笑)。

— 確かにユースホステルは青少年の健全育成を目的にしているので、一般的な宿泊施設とはちょっと雰囲気は違っていたかもしれません。そんな中「ユースホステルはフリーセックスの巣窟」という噂がなぜ広まっていたのか、ユースホステル関係者としては気になっています……。

みうら すいません。そこは当時の童貞にありがちな大いなる誤解でした(笑)。後になってよくよく聞いてみると、「フリーセックス」は女性解放運動のひとつだったんです。違ってます?何か、島に行けばそういうフリーな方がいるような噂もあって。

渡辺 でも、そういう同じような噂が全国に広がるのって何ですかね?

田口 都市にはそういう雑な情報を落として行く人が一杯いるんだよ(笑)。

みうら 都合のいいね(笑)。でも、俺のファッションときたら、ギターとラジカセ抱えて、Gパンに下駄履いてたのよ。これじゃモテやしない(笑)。

田口 よく言えば「いいとこ取り」だよな(笑)。訳わかんないファッション状態だけど。

みうら で、そんな格好なのに、「『普段何されてるんですか?』って人に聞かれたら『フォークシンガーなんです』って答えよう」とかって妄想して。でも、ユースのヘルパーの人たちって、そういうことを見て見ぬフリしてくれるんですよ(笑)。

田口 みうらさんがユースに行ってた時代って、良いキャラが揃ってたんですね。主人公がラジオを聴くシーンがあるんですけど、そのラジオのDJの声を演じていたのはみうらさんなんですよ。作り手の思いとしては、過去の純ちゃんと未来のじゅんちゃんがあそこで交差する、夢のような共演シーンだったわけです。

みうら 深夜放送もまた、旅と結びついていた時代でしたもんね。

渡辺 ラジオの深夜放送が旅と結びついてるってどんな感じですか?

みうら 深夜放送のDJをフォークシンガーの方がたくさんやってられたんでね。だから、同業者気分の俺にとっては単なる旅行じゃなくて、“ツアー”だったのかも(笑)。

少しだけ年上の先輩が カッコよく大人に見えた、 それぞれの青春時代

— 撮影時や映画公開前後には何かアクシデントやトラブルなどはなかったのでしょうか？

みうら ほらほら、記者会見の時、あるワイドショー番組のライターが失礼な質問をしてきて。

田口 そう、それでヒゲゴジラ(峯田さん)がキレたんだ。会見が終わった後にそのライターを呼び出して「あれは失礼なんじゃないか」って。そしたらその人もちゃんと非を認めてくれて。僕はちょうど別の場所でインタビューを受けていたんですけど、ライターが来て急に謝られて。その時は「あ、あの発言は失礼だって反省したんだ」と思ったんだけど、後でヒゲゴジラがキレてくれたんだって知りました。今となってはいい思い出ですよ。キャストが真剣に映画や共演者のことを考えてくれて凄く幸せでした。

渡辺 その時のこと覚えてます。僕も嫌な気持ちになったので。でも、僕は全然言えなくて、自分の中だけで悔しい思いがあったので。あとから峯田さんが言うてくださったのを知って、ヒーローみたいだなって気持ちになりましたし、俺ももし今後そういうことが起こった時に言える人間になりたいなって思いました。

みうら ヒゲゴジラが教えてくれた(笑)。

渡辺 まあ、それ以来失礼な質問をされる機会がないんですけどね……でも「いつでも俺は言えるぞ!」とは思っています(笑)。

— 渡辺さんが峯田さんのことをヒーローだと思ったように、「色即ぜねれいしょん」では渡辺さんが演じた純にとって峯田さん演じるヒゲゴジラは“青春リーダー”のような存在ですが、皆さんが10代の頃にそういう影響を受けたのはどんな人達でしたか？

峯田 僕は学生時代、ユースホステルっていう存在をあまり知らなかったんですけど、小学校高学年の頃から中学校までボーイスカウトをやってたんです。あの制服がカッコいいなって憧れて。そのボーイスカウトに誘ってくれたのが3つ上の先輩で、僕には彼がヒゲゴジラのような存在ですね。音楽にも詳しくあったなあ。サマーキャンプがある時は、先輩と遊ぶのが楽しかった。タメとか1コ上1コ下と交流することはあっても、3つ上、4つ上と触れ合うことってあまりないので、その人からたくさん刺激をもらいました。

渡辺 僕はこの映画で知り合った人達が人生の師匠という感じです。皆さんには本当にお世話になったんですけど、年齢の近い人で特に影響を受けたのは、同級生の池山役を演じた森岡龍くん。彼も3つ上で、音楽や映画のことを色々教えてくれたり、何もわからない時に全部を教えてくれ

た人でした。森岡くんも今思うと当時20歳という若さなのに、めっちゃくちゃ大人に感じて。休憩中にタバコの煙で輪っかを作ってくれたりするのを見てめっちゃかっこよく思えたんです。今思えばハタチそこそこの奴が現場でイキってるだけなのかなって思いますけど(笑)。

田口 煙で輪っか!今時やってる人いないよね、昭和っぽい(笑)。

みうら その頃の2つ3つ年上って、ものすごく大人に見えるもんね。

田口 40歳過ぎたらもうみんな同い年だよ(笑)。

みうら 確かに。でも、若い頃の2つ、3つ上が上下関係なく接してくれるとね、人生は変わるんだよね。

田口 僕も思春期に2~3コ上の先輩がアングラ演劇に連れて行ってくれたり、パンクロックを聴かせてくれたりしました。あとは、お酒を教えてくれたのもそういう先輩たち。僕は東京出身なんですけど、新宿のゴールデン街に連れて行ってもらった時はめっちゃくちゃ怖かった……それは20歳ぐらいの頃だったかな。名うての文化人や著名人が集う憧れの場所でもあり、怖い街でもあり。そういう場所への扉を開いてくれたのがちょっと年上の人達なんですよね。

みうら そういう人達ってみんな面倒見よかったよね。



Profile 渡辺大知(黒猫チェルシー)

1990年生まれ。俳優・ミュージシャン。バンド「黒猫チェルシー」のボーカルとして2010年メジャーデビュー。俳優業では映画『色即ぜねれいしょん』にて主演デビュー。同作にて日本アカデミー賞新人俳優賞受賞。以降、音楽活動と並行しながら『勝手にふるえてろ』『寝ても覚めても』『ギャングース』等の映画に加え、ドラマ『まれ』『ゾンビが来たから人生見つめ直した件』等、多数の作品へ出演。今夏はドラマ『べしやり暮らし』(テレビ朝日)と『ターン』(テレビ東京)へ出演。ソロLIVEも決定している。



田口 そうそう。でも、面倒見はいいけどべったりはしないっていう。子分になれっていう感じじゃなく、距離感がちゃんとしているから嬉しい楽しい。

—若い時に影響を受けた人って、イメージではもっと歳の離れた人や有名人かと思っていました。

みうら もちろん憧れのロックな人たちとかは別にいたけど、本当に影響を受けた人って確実に身近な人なんだよね。

足を使ってみることで、 何かが変わるチャンスが生まれる

田口 映画に出てくる若者と今の若者って、根本は同じだと思うけど、映画が描いたような、実際に人間とふれ合って近くなっていく関係っていうのは、インターネットが中心

になった今はなかなか難しいんじゃないかな？あの当時は圧倒的に情報量が少なかったし、現代は便利にはなったけれど、良いことか悪いことなのかはわからない。

みうら “不便を楽しむ”ってところが旅の楽しさだったしね。

田口 実際に足を使ってみることで、何かが変わるチャンスは作れると思うんですよね。それはとても大切なリアルなので、若い人にはぜひこの夏体験してみしてほしいです。とにかくユースに行ってみよう(笑)。

みうら でもミーティングは今もうないでしょ？

—そうなんです……あった方がいいですかね？

みうら あった方がいいよ！そういうプレイが好きなのは今でも確実にいますからね(笑)。

峯田 ホテル泊まるよりもこっちの方が面白そうじゃん！って思う人もいそうですね。

みうらじゅんフェス! マイブームの全貌展 MJ's FES in 富山

2019年7月6日(土)～9月1日(日) 10:00～18:00(入場は17:30まで)
会場: 富山市民プラザ(富山市大手町6-14)



みうらさんが世界各地で蒐集した多種多様なコレクションを中心に、みうらさん制作の平面・立体作品などを一堂に展示します。「アイデン&ティティ」「色即ぜねれいしょん」など、みうらさん原作、企画による映像作品も上映し、幅広い創作活動の全貌に迫ります。

詳細はこちらを御覧ください。
<http://www.siminplaza.co.jp/?tid=103732>



田口トモロヲ出演舞台

オリエント急行殺人事件

MURDER ON THE ORIENT EXPRESS
adapted for the stage by Ken Ludwig



世界的なベストセラー作家であり、「ミステリーの女王」と呼ばれたアガサ・クリスティの傑作「オリエント急行殺人事件」の舞台化。「オリエント急行殺人事件」は1934年の出版以降、何度も映画・ドラマ化されてきたが、2017年アメリカで舞台版が世界初演(舞台脚本:ケン・ルドウィック)今夏、河原雅彦の演出、豪華個性俳優のタッグで待望の日本初演を迎える。

【出演】小西遼生 室龍太(関西ジャニーズJr.)
春風ひとみ 伊藤純奈(乃木坂46) 穴戸美和公
松村武 伊藤梨沙子 田鍋謙一郎 マルシア
田口トモロヲ
【スタッフ】演出 河原雅彦

【日時】
【大 阪】2019年7月26日(金)-28日(日) 森ノ宮ピロティホール
【名古屋】2019年8月1日(木)-2日(金) ウィンクあいち 大ホール
【東 京】2019年8月9日(金)-18日(日) サンシャイン劇場

【公式HP】
www.orientexpress-stage.jp
【公式twitter】
@orient_St

Live



大阪・服部緑地野外音楽堂 **7/14 (日)**
真心ブラザーズ
『マゴーズニック2019 30周年スペシャル!』
出演: 峯田和伸・真心ブラザーズ ほか

新潟県湯沢町苗場スキー場 **7/27 (土)**
FUJI ROCK FESTIVAL'19
出演: 銀杏BOYZ ほか

恵比寿リキッドルーム **7/31 (水)**
LIQUIDROOM 15th ANNIVERSARY
出演: 峯田和伸・カネコアヤノ

北海道・石狩湾新港樽川ふ頭横野外特設ステージ **8/17 (土)**
RISING SUN ROCK FESTIVAL 2019 in EZO
出演: 銀杏BOYZ ほか

7/5 (金) 映画「いちごの唄」全国ロードショー

【出演】古館佑太郎 石橋静河 峯田和伸 ほか
【監督】菅原伸太郎
【脚本】岡田恵和
【原作】岡田恵和・峯田和伸(朝日新聞出版)
【音楽】世武裕子・銀杏BOYZ
【主題歌】「いちごの唄」(歌: 銀杏BOYZ)
【制作プロダクション】ファントム・フィルム
【配給】ファントム・フィルム

詳しい情報は公式サイトをご覧ください
<http://ichigonouta.com/>

詳しい情報は公式サイトをご覧ください
<http://www.hatsukoi.biz/>

初映像化!!!

珠玉の漫才漫画が

「ろくでなしBLUES」「ROOKIES」と、青春漫画の金字塔となる作品を生み出してきた巨匠・森田まさのりによる、お笑いを題材とした漫画の代表作「べしゃり暮らし」が待望の初映像化!



【ストーリー】
主人公・上妻圭右(演: 間宮祥太郎)は、学校一笑いに変換“学園の爆笑王”。そんなある日、高校生ながら元プロの芸人だった辻本潤(演: 渡辺大知)が、大阪から圭右と同じクラスに転校してくる! 初めはぶつかり合う二人だったが、やがて漫才コンビを組むことになって…!?

テレビ朝日に毎週土曜23:15~(7月スタート)
【出演】間宮祥太郎、渡辺大知、ほか
【原作】森田まさのり『べしゃり暮らし』(集英社)
【脚本】徳永富彦
【演出】劇団ひとり
【音楽】高見優 信澤宣明
【ゼネラルプロデューサー】三輪祐見子(テレビ朝日)
【プロデューサー】浜田壮瑛(テレビ朝日)、土田真通(東映)、高木敬太(東映)
【制作】テレビ朝日 東映



みうらじゅんさん、田口トモロヲさん、
峯田和伸さん、渡辺大知さん 4名の直筆サイン入り
小説『色即ぜねれいしょん』(光文社文庫)
抽選で3名様にプレゼント!

ご応募は日本ユースホステル協会ホームページの専用お申込みフォームから!
<http://www.jyh.or.jp/hm/>

応募締切
2019年8月末日

※なお、当選発表は、商品の発送を以てかえさせていただきます。



つづきをダウンロード(無料)



Hostelling Magazine vol.17
まとめてダウンロード



教えて! 旅GIRL P22



インタビュー P02
原作/みうらじゅん
監督/田口トモロヲ
銀杏BOYZ/峯田和伸
黒猫チエルシー/渡辺大知
今、改めて色即せねれいしょん



松島むうの晴れときどき旅びより P23



Youth Hostel Pick up P12
海と空を結ぶ、緑の架け橋
丹後の自然と人が旅のよこびにつながる
天橋立ユースホステル



Hostelling Magazine × 地球の歩き方... P16
夜景×アートが新しい! 香港
■ 町中が美術館! 中環〜上環ウォールアート巡り
■ SNS映え必至! かわいいスイーツ店が急増中
■ 今、リノベスポットがアツい! 2大最新スポット案内
■ 2泊3日で満喫する香港観光モデルルート

発行所: 一般財団法人日本ユースホステル協会 編集・発行人 寺島眞
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1 国立オリンピック記念青少年総合センター内
印刷・製本: サンメッセ株式会社
※本誌の情報は2019年6月20日現在のものです。
変更になる場合がありますので、お出かけになる前に現地にお確かめください。
※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。